

福祉施設入所者らボウリング楽しむ

2月14日、こすもすライオンズクラブ主催の第2回ふれあいボウリング大会がありました。福祉施設の職員や入所者ら150人が参加。同クラブ本一彦会長は「皆さんの笑顔が見れてうれしく思う」と話していました。



栗須小で国際交流フェスタ開催

2月24日、栗須小学校で栗須小国際フェスタがありました。宮崎大学の留学生6人と国際交流員、外国語指導助手が来校。同小5・6年の児童と自己紹介やゲームを通して英語を学びながら交流を深めました。



出身者中島さんが自著書籍を市に寄贈

関東に住む出身者でつくる「関東小林会」会長の中島祥行さんから、中島さんが著した生活習慣病予防に関する書籍を市へ8冊寄贈いただきました。市立図書館本館、須木・野尻分館で読むことができます。



自衛隊に入隊・入校する学生ら激励

2月26日、自衛隊や防衛大学などに入隊、入校する16人の激励会がありました。自衛隊関係者ら50人が参列。代表して富永遥さんが「自衛官として、ひとりの社会人としてがんばりたい」と決意を述べました。



認知症の人との接し方を学ぶ

2月26日、パリエーション講演会がありました。関西福祉科学大学准教授都村尚子さんが登壇し、認知症の人との接し方について説明し「懸命に伝えようとするれば認知症の人は分かってくれる」と話していました。



須木小児童ら紙すき体験 伝統の技術を学ぶ

2月26日、熊本県多良木町の椎葉製史教育長を講師とする紙すき体験が須木小で行われました。同小5、6年生20人が椎葉教育長の手ほどきを受けながら紙すきを体験。同小6年の平野空さんは「とても難しかったけど、2回目はうまくできて気持ちよかった」と笑顔を見せていました。



児童らは、多良木町槻木地区に自生する原料のミツマタの樹皮を溶かした水の中に木枠を浸して前後に動かしながら紙をすいていました

准看護学生 20人が卒業 決意を胸に看護の道に進む

3月4日、一般社団法人西諸医師会立小林准看護学校の卒業式がありました。20人の生徒が看護師としての決意を胸に親しんだ学舎に別れ。卒業生を代表して、松山志帆さんが「学校の誇りを胸に、人の命を預かることの重大さと責任を感じ、看護の道を進んでいきます」と決意を述べました。



内村大介学校長が一人一人に卒業証書を授与。「辛く厳しいことがたくさんあると思うが頑張ってください」とエールを送りました



三松中おやじ学級長の岩崎雄一さん(左)と川添さん(右)。表彰式は宮崎県局企業庁舎の県電ホールで行われました

おやじ学級と川添絃一さん 県教育長表彰を受賞

2月3日、「地域による学校支援推進にかかる教育長表彰」で川添絃一さんと三松小・中学校おやじ学級が表彰されました。この賞は、他の模範と認められる個人と団体に県教育長から贈られるもので県内6人6団体が受賞。川添さんは「今後さらに学校と地域を繋いでいきたい」と話していました。



小林市教育研究センターの1年間の取組について報告があり、参加者は教育に関する知識を深めました

小林市教育研究センターが 1年間の取り組みを発表

2月20日、小林市教育研究センター調査研究発表会並びに教育研究論文・授業論文表彰式が文化会館でありました。学校関係者ら342人が参加。各中学校区で取り組んだ実践や研究の発表が行われました。野尻中の江藤英俊さんと須木小の勝吉千穂さんが表彰されました。

小林中1年の谷口咲姫さん 公募日本習字硬筆展で特別賞

1月29日、小林中1年の谷口咲姫さんが第5回公募日本習字硬筆展で特別賞の全国中学校長賞を受賞しました。応募総数59,788点の中で特別賞は54点のみ。谷口さんは「1年間目指してきた硬筆展。毎日頑張ってきた成果がだせてとてもうれしいです」と喜びを語っていました。



盾を掲げる谷口さん。次の目標を聞くと「来年は大賞を取れるようにさらに練習をがんばってみたいです」と話していました

畜産振興大会で小林高駅伝部 OBの谷口浩美さんが講演

2月18日、小林市畜産振興大会2014が文化会館で開催されました。畜産関係者ら約400人が来場。トークショーでは、小林高校駅伝部OBで世界陸上マラソン金メダリストの谷口浩美さんが登壇し「小林で過ごした3年間の原点。諦めず努力を積み重ねれば成果は出る」と話していました。



トークショーで話す谷口さん。その他、情勢報告や基調講演なども行われ参加者は畜産に対する知識を深めました

地域婦人連絡協議会がお守りを寄贈

3月10日、市地域婦人連絡協議会から教育委員会に交通安全祈願のお守りが寄贈されました。このお守りには、小学校の新生が事件や事故にあわず無事に家に帰って欲しいという思いが込められています。



子育て支援に役立ててほしい

3月11日、ファッション衣料たなかの田中吉子さんから50万円の寄付がありました。田中さんは、「現在まで衣料品店を続けられたのは地域の皆さんのおかげ。子育て支援事業などに活用して欲しい」と話していました。



ホンダフェニックス会が刈払機を寄贈

3月16日、ホンダフェニックス会が東方小学校に刈払機1台を寄贈しました。校長室で贈呈式が行われ、同会の二見計行さんは「子どもたちのために、役に立ててもらえればうれしいです」と話していました。



九州北清株式会社が100万円寄付

3月16日、九州北清株式会社から100万円の寄付がありました。同社の久永彰博代表取締役社長は「地元への感謝の気持ちを込めて寄付しました。福祉の事業に役立てて欲しい」と話していました。



西諸生コン組合が防犯ブザーを寄贈

3月16日、西諸地区生コンクリート事業協同組合(西村賢一理事長)が、小学校の新生へ防犯ブザー380個を寄贈しました。贈呈式で外村公明副理事が「安心安全なまちに向けて役立ててほしい」とあいさつしました。



小林駅の南北通路が開通 駅舎もプラットホームに移設

3月15日、JR小林駅の南北を結ぶ歩行者専用通路が完成し、噴水公園で開通式が行われました。式典には、JR関係者や地域住民、市関係者ら約120人が参加。テープカットやくす玉割りで開通を祝い渡り初めを行いました。また、開通に伴い駅舎がプラットホーム内に移設されました。



完成した通路を渡り初めする様子。今後、旧駅舎を取り壊し、28年度中に地域・観光交流センター(仮称)を建設する予定です

「子どもは右脳型？左脳型？」脳科学からみる子育て講演会

3月15日、西諸地区の5つの子育て支援センターでつくる「KETサンシャインネットワーク」が主催する子育て講演会が、保健センターで開催されました。保育士や子育て中の母親など約50人が参加。Brain-Mental Laboratoryの足立明彦代表を講師に、脳科学からみる子育てについて学びました。



「右脳型と左脳型は、考え方が違う。男女でも脳に違いがある。子どもの個性を理解し、しかり方や接し方を考えよう」と足立さん



3月10日、市長が松永さんを訪問。バラ咲きのプリムラポリアンサや木立性のサイネリアなど松永さんの手がけた花を観賞しました

地域農業の発展に尽力 松永一さん緑白綬有効章受賞

3月3日、南西方の花農家で育種家の松永一さんが農事功績者表彰「緑白綬有功章」を受賞しました。昭和58年から市で生産を始め、栽培の技術改良や地域農業の発展に尽力。松永さんは「育種は1つ作るのに10年かかる根気のいる作業。進化する花たちに畏敬の念を感じている」と話していました。



受賞作品と大山さん。大山さんの通う弓削書道教室の弓削慶佐子さんは「基本に加え、大胆さが評価された」と話していました

野尻中3年の大山夏和さん 書道コンテストW受賞

1月15日、野尻中3年の大山夏和さんが第38回全国書初作品展(応募総数2万点)で大宰府天満宮賞を受賞しました。同25日、第36回読売学生書展(応募総数1万3715点)で特別賞の琉球新報大賞も受賞。大山さんは「今までの積み重ねが評価されてうれしい」と喜びを語っていました。

須木小・中の卒業生の記念に 八重桜など110本を植樹

3月7日、もみじの里作り事業の景観整備と併せて、須木小・中の児童生徒の卒業記念に八重桜など110本を植樹しました。卒業生ら、林業関係者、地域住民ら約70人が参加。永田区の河野雄二区長は「毎年春には、今回植えた桜の花見をして、地域の交流を深めていきたい」と話していました。



八重桜を植樹する須木中生徒と地域住民。3年間で計画されていたもみじの里づくり事業は、この植樹祭で終了となります

ふるさと納税を全国にPR 羽田空港に大型ポスター設置

3月1日から1カ月間、羽田空港内に「小林市ふるさと納税」をPRする大型ポスター4枚が設置されました。人の移動が多くなる時期に合わせ、国内最大の空港内でPRし、寄附の増加や市の認知度向上につなげるなどが狙い。今後もさまざまな取り組みを展開し、市のアピールに努めます。



第2ターミナル地下中央ロビーに掲示。ポスターの大きさは2m×60cm×2m、10mで、デザインのテーマは、小林の宝「自然と人」